

[畜産部門 令和5年度 普及に移す研究成果]

事 項 名	サイレージ用トウモロコシの奨励品種「ゴールドデント KD090 カリス」の特性		
ね ら い	本県に適するサイレージ用トウモロコシの品種（極早生）を選定するため、流通品種の生育特性及び収量性を検討した結果、「ゴールドデント KD090 カリス」が既存の奨励品種と比較して、紋枯病耐性にやや劣るものの雌穂割合が高く、収量性に優れることが明らかになったので、奨励品種として普及に移す。		
内 容	<p>1 来歴 フランスで育成された品種（デント種×デント種）であり、令和2年からカネコ種苗（株）から販売されている。</p> <p>2 主な特性（標準品種「おおぞら」との比較）</p> <p>(1) 初期生育：同程度である。</p> <p>(2) 絹糸抽出期：1日遅い。</p> <p>(3) 生育日数：1日短い。</p> <p>(4) 稈長、着雌穂高及び稈径：稈長はやや低く、着雌穂高はやや高く、稈径は同程度である。</p> <p>(5) 耐倒伏・折損性：同程度である。</p> <p>(6) 病害：紋枯病の発生程度がやや高い。</p> <p>(7) 乾物収量：多収である。</p> <p>(8) 雌穂割合：約6ポイント高い。</p> <p>(9) 早晩性：極早生品種である。</p>		
期待される効果	サイレージ用トウモロコシの安定生産に資する。		
普及上の注意事項	紋枯病の罹病程度がやや高いため、紋枯病多発圃場や水はけの悪い圃場での作付けは避け、栽植密度の適正化と雑草防除により通気を良好にする。		
問合せ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対象地域 及び経営体	県内全域の養牛 農家等
発表文献等	なし		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「ゴールドデント KD090 カリス」の生育特性

(令和2～4年 青森畜産研)

早晚性	品種・系統名	年次	初期生育	絹糸抽出期 (月/日)	刈取日 (黄熟期) (月/日)	生育日数 (日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	稈径 (cm)	倒伏		折損 (%)	不稔割合 (%)	病害	
										30-60° (%)	60° - (%)			すす紋病 (%)	紋枯病 (%)
極 早 生	ゴールドデント KD090カリス	令和2年	8.0	7/30	9/10	122	266	115	1.50	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	33.8
		令和3年	6.0	7/25	9/10	123	236	99	1.52	1.9	9.5	0.0	1.0	2.7	33.3
		令和4年	6.0	7/26	9/9	122	227	94	1.53	3.8	4.7	0.0	6.6	2.0	50.9
		平均	6.7	7/27	9/9	122	243	103	1.52	1.9	4.7	0.0	2.5	2.3	39.3
	おおぞら (標準)	令和2年	7.7	7/31	9/9	121	280	113	1.58	0.0	0.0	0.9	1.9	2.0	29.7
		令和3年	6.5	7/22	9/6	119	261	98	1.52	4.9	4.9	1.0	3.8	2.5	16.6
		令和4年	6.0	7/26	9/15	128	242	84	1.59	0.0	17.2	0.0	26.0	2.7	41.1
		平均	6.7	7/26	9/10	123	261	98	1.56	1.6	7.4	0.6	10.6	2.4	29.1

- (注) 1 初期生育は9（極良）～1（極不良）とする評点法による。
 2 すす紋病は被害程度と被害面積に応じて1（無）～9（甚）とする評点法による。
 3 紋枯病は菌核が形成された個体の全個体に対する割合。
 4 令和3年：8月9日（降水量53.0mm、最大風速7.2m/s）、8月10日（降水量103.5mm、最大風速11.9m/s）に暴風雨、令和4年：8月2日に暴風（風速9m/s）
 5 倒伏：それぞれ30°以上60°未満、60°以上倒伏した個体の全個体に対する割合。

表2 「ゴールドデント KD090 カリス」の収量性

(令和2～4年 青森畜産研)

品種・系統名	年次	乾物収量 (kg/10a)				乾物率 (%)			雌穂割合 (%)	TDN 含有率 (%)
		茎葉	雌穂	総重	標準比	茎葉	雌穂	全体		
ゴールドデント KD090カリス	令和2年	683	1,038	1,721	110	21.7	55.3	34.2	60.3	71.7
	令和3年	659	926	1,585	108	25.6	57.5	37.8	58.4	71.2
	令和4年	684	798	1,482	115	24.0	54.8	34.4	53.7	70.0
	平均	675	921	1,596	111	23.8	55.9	35.5	57.5	70.9
おおぞら (標準)	令和2年	710	860	1,570	100	22.9	57.6	34.2	54.8	70.3
	令和3年	703	766	1,469	100	30.8	56.4	39.9	52.0	69.5
	令和4年	663	624	1,287	100	26.1	60.2	35.9	48.2	68.5
	平均	692	750	1,442	100	26.6	58.1	36.7	51.7	69.4

- (注) 1 TDN含有率推定式： $56.0 + 0.26 \times \text{雌穂割合}$
 2 標準比は標準品種の総重を100とした指数。

耕種概要

- 試験場所
畜産研究所内圃場
- 播種期
令和2年5月11日、令和3年5月10日、令和4年5月10日
- 施肥量 (10a 当たり)
基肥 (化学肥料) $N-P_2O_5=10-10kg$ 、牛ふん堆肥 4,000kg、炭カル pH6.0～6.5 矯正量
- 栽植密度
8,080 本/10a (畝間 75cm、株間 17cm)
- 面積、区制
1区 $9.9m^2$ 、3反復、乱塊法配置